



東原キャラクター「かめっち」

校長室の窓から



座間市立東原小学校
電話 253-3145

行事の多い2学期も、行事が一つ一つ終わっていき、いよいよまとめの時期に入りました。

運動会では、たくさんの保護者のみなさんと地域の方々に温かいご声援をいただき、ありがとうございました。6年生の日誌には、「難しい技を披露したときに『わー！』『すごい！』という声が聞こえてきて、とてもうれしかったです。」とありました。ご声援が大きな励みになっています。

6年生にとっては最後の運動会・・・集団演技が終わって一列になって「ありがとうございました！」と挨拶したときに、下級生から「こっちこそ、ありがとうだよ！」という言葉があがったそうです。心温まるエピソードです！



みんなで考えよう！防災・防犯活動

11月の学校運営協議会では、「学校・地域・家庭の防災・防犯活動」というテーマで、まずは学校での活動を知っていただき、その後熟議を行いました。その中で、地域からの視点での意見をたくさんいただきました。

学校では、年に3回、地震・不審者・火災を想定した避難訓練を行っています。職員は、毎年行っていることで学年が上がるにつれて、動きが身についてきていると感じています。地域の方からは「**学校で体験したことを、家庭で話してほしい。**」とのお話がありました。学校で避難訓練したときに、家庭でも話題にすることは、防災・防犯意識を高めることにつながると思います。遠足のときには、出来事をおうちでも話すよう促しますが、避難訓練のときにも「訓練のことをおうちでも話してね。」と子どもたちに呼びかけていくことは大切だと思いました。

また、昨年度、本校で作成した「**危機管理ファイル**」を見ていただきました。「集団下校・引渡し・待機」から「いじめ問題への対応」まで全22項目あります。職員は、何かあったときのマニュアルがある良さを感じつつ、まだファイルを熟読できていない課題も感じています。地域の方からは、「**組織として、共通認識をもって取り組もうとすることは大切。**」「データでなく、ファイルであることがよい。大災害時は電気が止まるので、**マニュアル可視化がよい。**」と本校でやっていることを後押ししていただきました。いざというときにファイルを活用できるよう、長期休業の際の研修にて全体で確認するなどに取り組んでいきたいと思ひます。

先日、本校で実施された「避難所開設訓練」については、**訓練が地域のつながりの向上になることが話題に出**されました。子どもたちも体験できるので(心肺蘇生、テントはり・・・)学校と地域が共に訓練するのがよいのですが、昨年度に比べて、子どもたちや親子の参加が少なかったです。(学校としては呼びかけ不足が反省です。)私が、阪神淡路大震災の被災者の方のお話を聞いたとき、「地域とのつながり・コミュニケーションが1番重要だった。震災後、地域社会のつながりの重要性が再認識された。」との話が心に残りました。子どもたちが開設の知識を習得できるという面でも、地域の方々とのつながりという面でも、この訓練を子どもたちに広げていきたいです。

子どもたちの学習でも心肺蘇生に取り組む、親子で防災について一緒に取り組める課題を出すなどアイデアは広がります。また、下校中に災害が起きたら・・・など考えていくべきことも山積みです。こんなふうに思えるのも、地域の方々との意見交換のおかげだと、有難く思っています。